資料6

知床におけるヒグマ人身事故を受けた「登山口情報提供施設」の設置（案）

～情報提供～

令和8年3月3日

北海道森林管理局

目　　次

１．知床森林生態系保護地域におけるヒグマ人身事故の発生と
再発防止策　1

２．登山口における注意喚起のイメージ（仮工作版）　2

３．リスク評価に基づく注意喚起　3

４．ヒグマの行動段階区分　4

５．羅臼岳等登山口における情報提供施設設置予定箇所位置図（全体）　5

知床森林生態系保護地域におけるヒグマ人身事故の発生と再発防止策

令和７年８月１４日に知床森林生態系保護地域内の羅臼岳登山道においてヒグマによる登山客への人身事故が発生。

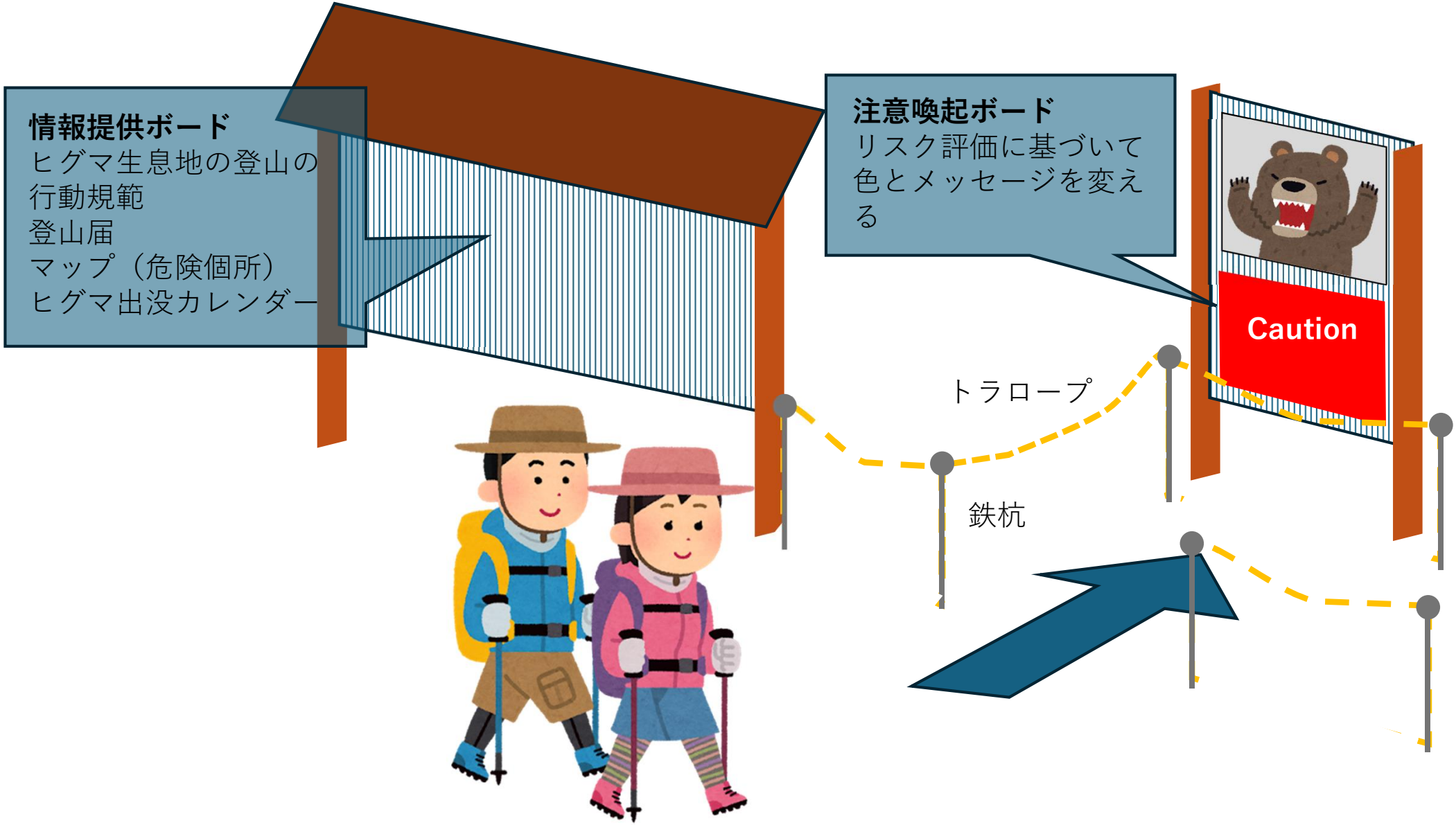
知床ヒグマ対策連絡会議において、有識者（知床科学委員会ヒグマWG等）の意見を聞きつつ、事故の検証と再発防止の検討に取り組んでいたところ、以下の論点が指摘された。

＜課題と対応の方向性＞

- 注意喚起看板には、危険事案の内容と、クマ撃退スプレーの携行を強く推奨したが、同行者への聞き取りによれば記憶に残る効果はなかった。
- 危機感を伝え行動変容を促す注意喚起の手法検討が必要である。

令和７年度第２回知床世界自然遺産科学委員会
ヒグマWG資料より一部抜粋

登山口における注意喚起のイメージ（仮工作版）



令和７年度第２回知床世界自然遺産科学委員会
ヒグマWG資料より

具体的な施策3-1　リスク評価に基づく注意喚起

ヒグマ情報からリスク情報へ

- 登山者へのヒグマ情報の発信にあたっては、リスクコミュニケーションの考え方に沿った情報の評価（レーティング）が重要。
- 評価にあたっては、行動段階区分を中心に、複数の情報ソース（個体情報、目撃情報、餌資源情報など）を一元化し、専門スタッフにより判断されることが望ましい。
- リスク評価に基づいた注意喚起情報を発出することで、リスクの見える化と登山者の行動を変えるきっかけに資すると考えられる。

リスク評価に基づく注意喚起の区分（案）

リスク区分	対応内容	評価基準	行動への助言	
4. 極めて危険	・登山口の閉鎖 ・速やかな下山の呼びかけ	・行動段階2以上の事例が確認された、または明確に予見される場合。 ・シカ死体等の突発的かつ明確な誘引物がある場合。 ・「3警戒」に該当する事例が同一地点で頻発するなどの場合。	・ヒグマによる人身事故のリスクが極めて高いため、対象エリアのすべての登山口を閉鎖します。新たな入山はできません。 ・すでに入山中の登山者については、危険事例の情報を確認し、速やかに下山してください。	
3. 警戒	・利用自粛を要請 ・（必要に応じて）登山口の部分的な閉鎖	・行動段階1＋の事例が確認された、または明確に予見された場合。 ・「2留意」に該当する事例が同一地点で頻発するなどの場合。	・「人を恐れない、逃げない」ヒグマ（問題個体）が当該コース上で確認されています。 ・事例の詳細を確認し、リスクを軽減する準備や行動を取って下さい。 ・リスクが受容できない場合は計画の中止や変更を検討してください。	
2. 注意	・注意喚起	・行動段階1以下の事例が確認された場合。 ・ヒグマの季節移動、繁殖期などにより目撃数が増加傾向にある場合。	・ヒグマの活動が活発化しており、登山中の遭遇の可能性が高い状況です。 ・最新情報を確認し、状況に応じてリスクを軽減する準備や行動をとってください。	
1. 通常	・通常の情報提供	・ヒグマの活動は確認されているものの、ヒグマ情報、目撃情報がないか僅少で推移している場合。	・問題個体や危険事例は1週間以上確認されていません。 ・ヒグマの生息地であることを認識し、必要な準備や対策をとってください。	
期間外/情報不足	－	・運用期間外 ・情報不足により評価できない。	－	

令和７年度第２回知床世界自然遺産科学委員会
ヒグマWG資料より

【参考】ヒグマの行動段階区分

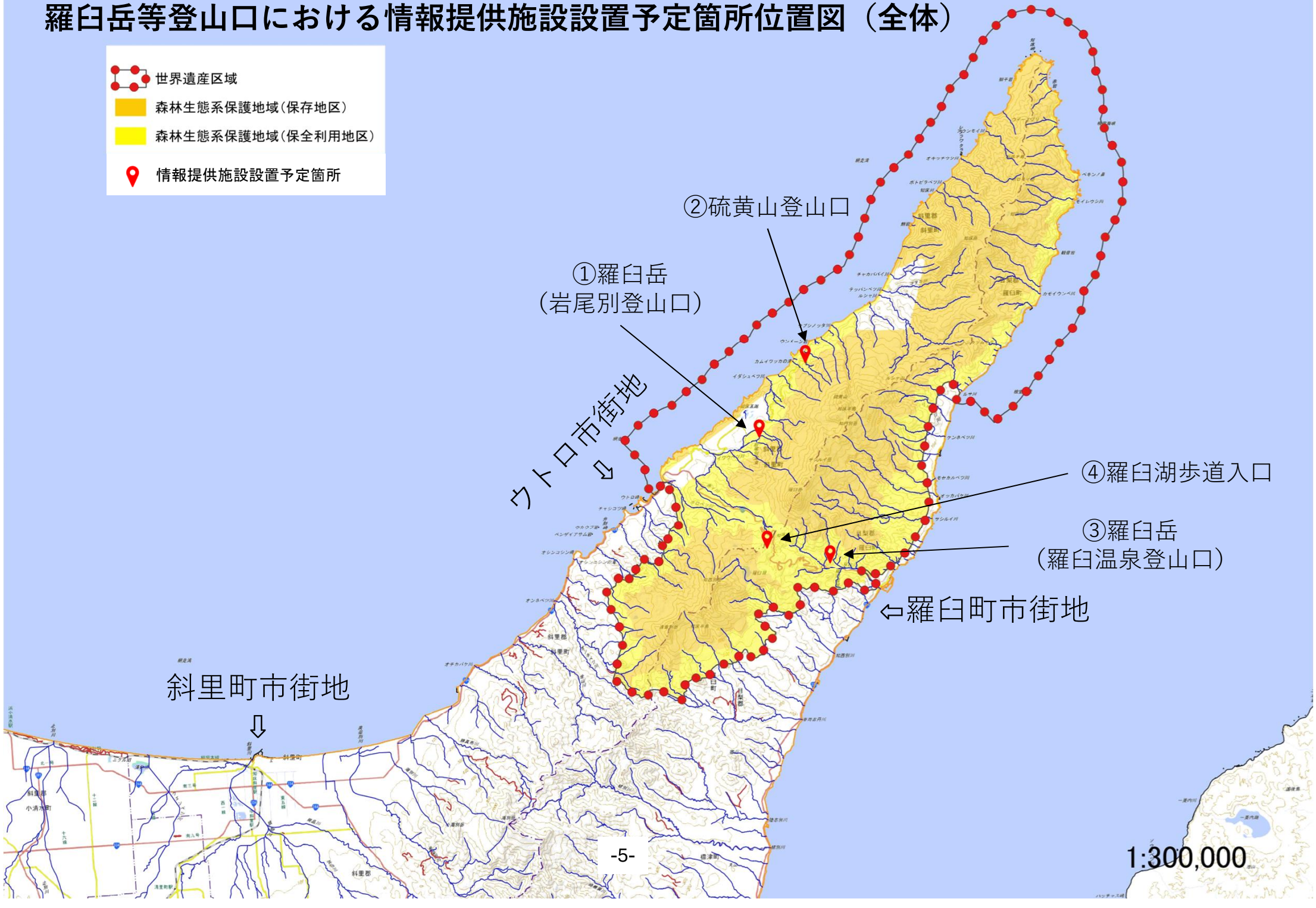
・段階０：　人を避ける。人との出会いを積極的に回避し、出会った場合にも逃走していくような個体。

・段階１：　人を避けない。人に出会っても慌てて逃走するような行動はみられないが、人為的食物を食べてはいない。

・段階１＋：　段階１ではあるが行動改善が見られない個体。人間の所有物に実害を与えているとまで言えないが、強い興味を示す行動等が見られる個体。

・段階２：　人の活動に実害をもたらす。人為的食物を食べた個体、あるいは農作物や漁獲物、人家等人間の所有物に直接被害を与えた個体。

・段階３：　人につきまとう、または人を攻撃する

第２期知床半島ヒグマ管理計画より一部抜粋

羅臼岳等登山口における情報提供施設設置予定箇所位置図（全体）